

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生体機能代行装置学演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担当教員	平和 千晶 前田 直人	実務経験と その関連資格	臨床工学技士として、高槻会高井病院、大阪市立大学医学部付属病院、馬場記念病院において、循環器業務を主に計20年間従事。(平和)臨床工学技士として市立堺病院で15年勤務。大阪府臨床工学技士会 学術委員会(1996～)(前田)			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士国家試験の生体機能代行装置に関する各分野について、概要を理解し、試験合格に必要な実力を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
小テストを実施し、試験評価点とする。学習進捗の状況によっては、期末試験を実施する場合がある。試験を70%、出欠を20%、授業中の態度を10%で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書なし、スライド資料および、過去問資料を配布						
《授業外における学習方法》						
臨床工学技士の国家試験や第2種ME技術実力検定試験で出題される当該分野について、過去問題を中心に繰り返し演習する。						
《履修に当たっての留意点》						
配布資料の過去問題の正解の内容のみならず、その意味を理解し整理すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	医学概論・臨床医学(循環器系)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布		学習した内容を復習すること。
		各コマにおける授業予定	医学概論・臨床医学(循環器系)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(循環)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布		学習した内容を復習すること。
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(循環)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(循環)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布		学習した内容を復習すること。
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(循環)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(循環)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布		学習した内容を復習すること。
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(循環)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(循環)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布		学習した内容を復習すること。
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(循環)に関する過去問題演習の実施と解説。			

授業の方法		内 容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(循環)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(循環)のまとめ試験。		
第7回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	医学概論・臨床医学(呼吸器系)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	医学概論・臨床医学(呼吸器系)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第8回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(呼吸)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(呼吸)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第9回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(呼吸)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(呼吸)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第10回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(呼吸)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(呼吸)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第11回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(呼吸)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(呼吸)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第12回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(呼吸)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(呼吸)のまとめ試験。		
第13回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	医学概論・臨床医学(代謝・内分泌)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	医学概論・臨床医学(代謝・内分泌)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第14回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(代謝)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(代謝)に関する過去問題演習の実施と解説。		
第15回	講義演習形式 授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(代謝)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(代謝)に関する過去問題演習の実施と解説。		

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	臨床工学技士科(昼間部)		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	生体機能代行装置学演習		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	
担当教員	平和 千晶 前田 直人	実務経験と その関連資格	臨床工学技士として、高槻会高井病院、大阪市立大学医学部付属病院、馬場記念病院において、循環器業務を主に計20年間従事。(平和)臨床工学技士として市立堺病院で15年勤務。大阪府臨床工学技士会 学術委員会(1996～)(前田)			
《授業科目における学習内容》						
臨床工学技士国家試験の生体機能代行装置に関する各分野について、概要を理解し、試験合格に必要な実力を身に付ける。						
《成績評価の方法と基準》						
小テストを実施し、試験評価点とする。学習進捗の状況によっては、期末試験を実施する場合がある。試験を70%、出欠を20%、授業中の態度を10%で評価する。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
教科書なし、スライド資料および、過去問資料を配布						
《授業外における学習方法》						
臨床工学技士の国家試験や第2種ME技術実力検定試験で出題される当該分野について、過去問題を中心に繰り返し演習する。						
《履修に当たっての留意点》						
配布資料の過去問題の正解の内容のみならず、その意味を理解し整理すること。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第16回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(代謝)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(代謝)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第17回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(代謝)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(代謝)に関する過去問題演習の実施と解説。			
第18回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学(代謝)の概要を理解する。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	生体機能代行装置学(代謝)のまとめ試験。			
第19回	演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学に関する国家試験の過去問題が理解できる。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	総合演習			
第20回	演習形式	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学に関する国家試験の過去問題が理解できる。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。	
		各コマにおける授業予定	総合演習			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第21回	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学に関する国家試験の過去問題が理解できる。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	総合演習		
第22回	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学に関する国家試験の過去問題が理解できる。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	総合演習		
第23回	授業を通じての到達目標	生体機能代行装置学に関する国家試験の過去問題が理解できる。	スライド資料および、過去問資料を配布	学習した内容を復習すること。
	各コマにおける授業予定	総合演習		